

大阪大谷大学



外観

「大阪大谷大学」は、1909(明治42)年に設立された大谷裁縫女学校をルーツとし、1966(昭和41)年に前身となる大谷女子大学として開学。2006(平成18)年に男女共学制に移行し「大阪大谷大学」に改称された。



1号館(本館)1F東女性トイレ 入口

改修前は、入口から洗面コーナーが見えてしまうレイアウトで、掃除流しも露出していたため、掃除流しを見えないようブースで囲った仕様に変更、同時に洗面コーナーの目隠しとしている。



1号館(本館)1F東女性トイレ 全体

正門から最も近い場所にあるトイレのため、在学生だけでなく、オープンキャンパスなどで訪れた学生なども利用する。大きな窓や照明、白基调の内装により、清潔感がある明るい空間となっている。



1号館(本館)1F東女性トイレ 洗面コーナー

アイランド型の洗面コーナーを採用し、空間の意匠性を高めている。器具は、コンパクトでスタイリッシュな角型のベッセル式洗面器と、非接触で利用できる自動水栓を採用している。



1号館(本館)1F東女性トイレ スタイルングコーナー

荷物配慮として、上部の棚はポーチなどの小さな手荷物、下部の棚は大きな荷物が置けるよう、2段にして用意。さらに、トートバッグなど学生の多様な荷物に対応できるよう、上部の棚の下にはフックも設置している。



1号館(本館)1F東女性トイレ フィッティングルーム

就職活動などでの着替えに配慮し、靴を脱いで利用するフィッティングルームを1ヶ所設置。ルーム内には、全身鏡やフック、ハンガーを備えている。



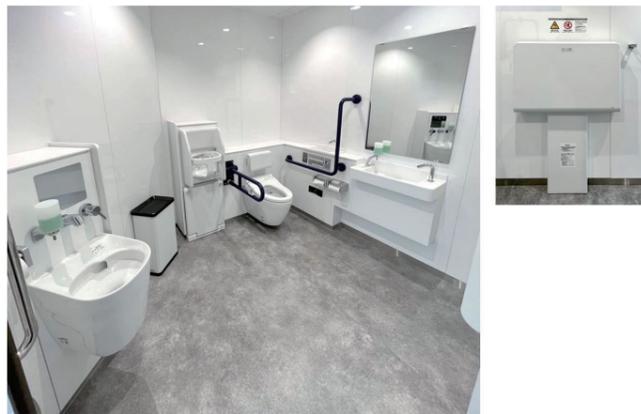
1号館(本館)1F東女性トイレ 大便器ブース

改修を機に、すべてを洋式化し、ウォシュレットを設置。内装は、壁・床やブースにリアルな質感のある素材を選定し、全体として落ち着いた雰囲気のあるトイレに仕上がっている。



4号館(志学館)1F バリアフリートイレ入口

改修前は、バリアフリートイレの入口が、女性トイレ内の通路にあったため、このたびの改修を機に、男女問わず利用しやすい位置に入口を移動。モトーンでシンプルなサインを設けている。



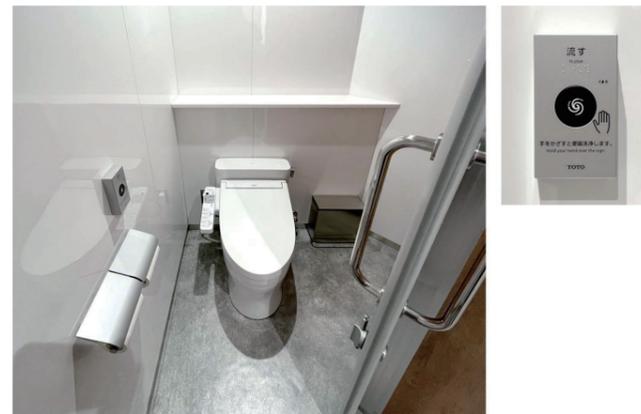
4号館(志学館)1F バリアフリートイレ

災害時などに近隣住民の避難場所としても機能することを想定し、コンパクトオストメイトパックを設置。また、隣の建物に教育学部の保育室があり、各種イベントで利用されるため、ベビーシートなども設置している。



4号館(志学館)1F 女性トイレ 洗面・スタイルングコーナー

ボウル幅がコンパクトなベッセル式洗面器を選定したことにより、器具数を確保しながらも、スタイルングコーナーの新設を実現している。



4号館(志学館)1F 女性トイレ 大便器ブース

大便器は、連続洗浄や同時洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。洗浄ボタンは非接触でタッチレス操作が可能なセンサースイッチを採用し、衛生面に配慮している。



4号館(志学館)2F 男性トイレ 入口

トイレ入口は非接触のドアレス。吹き抜けの共用部で学生が使いやすい場所に位置している。トイレサインはシンプルなデザインを使用。

大阪大谷大学



4号館(志学館)2F
男性トイレ 全体

内装は、白基調に温かみのある木目調を採用した、清潔感のある落ち着いたトイレ空間。快適性やプライバシーへの配慮として、洗面コーナーと小便器の間には、しっかりとコーナーを分ける間仕切りを設けている。



4号館(志学館)2F
男性トイレ 洗面コーナー

洗面器2ヶ所の向かい側の空きスペースに、洗面器1ヶ所を設置できたことにより、大便器、小便器、洗面器は改修前と同じ器具数を確保している。



4号館(志学館)2F
男性トイレ
小便器コーナー

床の清掃性や節水性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用。また、小便器の足元には、光触媒技術による抗菌・抗ウイルス効果で菌の繁殖による汚れやにおいの発生を抑えるハイドロセラフロアPUを採用している。



4号館(志学館)2F
男性トイレ 大便器ブース



大便器は、床面の清掃性に考慮して壁掛大便器セット・フラッシュタンク式を採用。大便器の横には、大便器の配管隠しを利用し、荷物置きとして使用できる棚を設置している。



4号館(志学館)4F
エレベーター前
女性トイレ 全体

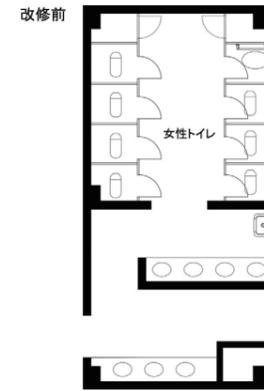
当該トイレは、狭小スペースであるため、大便器ブース、洗面コーナー、スタイリングコーナーを効率的に設置。各コーナー最低限度の寸法をおさえつつ、無理なく使えるようにレイアウトしている。



4号館(志学館)4F
エレベーター前
女性トイレ
洗面・大便器コーナー



改修前は和式便器だったため、和洋リモデル工法を採用し、洋式便器へ切り替え。既存の給排水のルートそのまま使うことで、短工期の工事が可能となった。



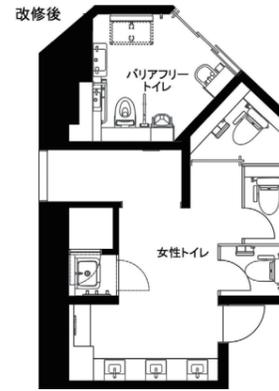
1号館(本館)1F東
女性トイレ図面



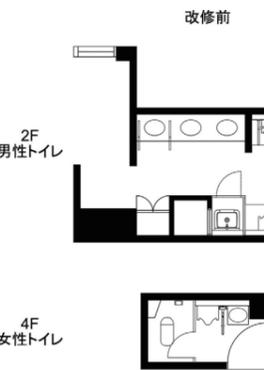
プライバシーと意匠性に配慮し、掃除流しをブースで囲い、洗面コーナーが見えないように変更。改修後、洗面器数は減ったがスタイリングコーナーを充実させることで、洗面コーナーの滞在時間減少に寄与している。



4号館(志学館)1F
トイレ図面



改修を機に、男女問わず利用しやすい位置にバリアフリートイレの入口を変更している。和式便器は、全洋式化された。



4号館(志学館)2・4F
トイレ図面



2F男性トイレは、器具数を確保しながら洋式化を実施。また、4Fは男性トイレだった場所を女性トイレに改修。狭小空間のため、各コーナー最低限度の寸法をおさえつつ、無理なく使えるようにレイアウトした。

水まわりの特長

建物の特徴

「大阪大谷大学」は1966(昭和41)年に前身となる大谷女子大学として開学。2006年(平成18)年に薬学部を設置と同時に男女共学制に移行され「大阪大谷大学」に改称した、4学部7学科の総合大学。「自立」「創造」「共生」の教育理念のもと、学識、情操、品性に優れた人材を育成している。今回、1号館(本館)の耐震補強工事を実施するにあたり、1号館と4号館(志学館)の改修を実施。1号館は正門から最も近い建物であり、総務課や教務課、キャリアセンターなどの事務部署と講義や演習の授業が行われる講義室や演習室などを配置。4号館(志学館)はイベントやオープンキャンパスで利用され、1Fは学生が自習などを自由に使用、2Fには学生生活をサポートする学生課、3Fには見晴らしのよい食堂が備わっている。

水まわりの特長

正門から最も近い1号館(本館)は、在学生だけでなく、オープンキャンパスなどに訪れた学生なども利用する。1F東女性トイレには、アイランド型の洗面コーナーを採用し、空間の意匠性を向上。さらに、身障いや就職活動時の着替えなどに配慮し、スタイリングコーナーとフィッティングルームを設置した。フリースペースや食堂がある4号館(志学館)の1Fトイレは、改修を機にバリアフリートイレの入口位置を変更し、男女問わず利用しやすくなった。バリアフリートイレには、災害などの非常時に近隣住民の避難場所としても機能することを想定し、コンパクトオストメイトバックを設置。隣の建物に教育学部の保育室があることや、各種イベントで利用されることから、ベビーシートやベビーチェアも設置している。

建築概要

名称	大阪大谷大学
所在地	大阪府富田林市錦織北3-11-1
施主	学校法人 大谷学園
設計	TOTOアクアエンジニア株式会社
施工	TOTOアクアエンジニア株式会社
竣工年月	(改修)2022年9月
建築面積	3,100.53㎡
延床面積	7,375.58㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上3階(1号館)、地上5階(4号館)

おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BMC
- 壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3CS1
- ウォシュレットアブリコットP(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5840AUPN
- ウォシュレットP:TCF589AE
- 二連紙巻器:YH700AW
- チャームボックス(汚物入れ):YKB102
- 自動洗浄小便器:UFS900JCS
- 小便器用手すり:T114CU22R
- ハイドロセラフロアPU:AB690E
- 洗面器:LS721C
- カウンター用手すり:M268N
- コンパクトバリアフリートイレバック:UADBK31R1A1ANN1BA
- コンパクトオストメイトバック:UAS81RDB2NW
- ベビーシート:YKA25S
- LED照明付鏡(化粧照明タイプ):EL80016
- 化粧鏡:YMK51K
- 全身鏡:YMK50K
- フック:YKH22